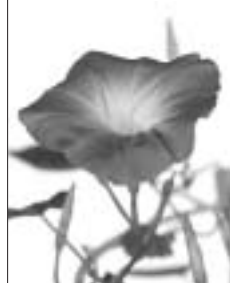


特集 「生徒の実態に即した授業」の作り方



生徒の「実態」に即すとは

前富山大学教授 安藤 修平
あんどう しゅうへい

1 生徒の「実態」のとりえには「層」がある

生徒の「実態」を生かそうとする場合、とりえ方や目的により五つの「層」が考えられる。

まず、第一層は、例えば「本校の子どもたちは、教師から課題を提示すれば集中して取り組むことができる。」といったもので、いわば一般的なとりえをいう。このとりえは、学校の研究で「目ざす生徒像」などを考えていく際によく用いられるものである。もちろん、十分なリサーチのうえでのとりえが必要であることはいつまでもない。

第二層は、学級の「実態」の場合である。例えば、「この学級の生徒は、落ち着きがあり黙々と課題に取り組むが、反面、一、三の生徒を除いては表現力に乏しい傾向がある。」といったものである。こうした「実態」は、学級担任として学級経営の目標設定などの際に用いるものであるが、ときどき国語科の指導案で目にかかることがある。

第三層は、同じく学級の「実態」ではあるが、国語科の視点から描いたものである。例えば、「読書傾向は、学年が上がるにつれて読書量が減り、全く読まない者が増加する。」といったものである。この「実態」は、国語科のカリキュラムの基底に必要なものであり、国語科の指導案に登場することが多い。

第四層は、同じく学級の「実態」であり、国語科の視点から描いたものであるが、焦点をもっと狭めて、本単元や本題材の目標から見ての「実態」である。例えば、「文章の展開に即して内容をとらえる力は、ほぼ八割方の生徒が身につけている。」「作者宮沢賢治については半数の者が知っており作品名を挙げることができる。」「といったものである。国語科の指導案にときどき登場する。

2 「実態に即した授業」に必要な「実態」はどれか

本稿のテーマである「実態に即した授業」に必要な「実態」は右に挙げた四層のうちいずれであろうか。多くの実践者は「第四層」と答えるであろうが、実は四層すべてが必要である。第二層は第一層の一部であり、第四層と第三層も同根である。倍率を変えらるゝといつてもよいし、切り取り方の違いといつてもよい。これら四つの「実態」が常に連続的に意識され、目的によつて遠景・中景・近景が入れ替わると考えてもいい。「授業のための」となれば第四層が「近景」になり、第三層が中景になり、他が遠景になるのである。

3 再び、「実態に即した授業」に必要な「実態」はどれか

わたしは、第四層を「近景」とすることを提案した。この方法は単元の枠組みや重点目標の設定には確かに役立つ。いわば登山の際、その登山ルートを選択や最終目的（頂上まで行くか途中の峰で終えるか）を決定するための情報である。しかし、ルートや最終目的だけで登山が楽しく充実し成就感に満ちたものになる保証はない。授業はもっと複雑であり、混沌に満ちている。

では、どうしたらよいのか。「読むこと」でいえば、適宜に生徒の「反応」をとらえ、「分析」し、次の「手」を編み出していくことである。一例として、通読後の第一次感想（感想は生徒の「反応」である。これも「実態」の一つである）を分析することによる、「実態」に即した授業の作り方を「走れメロス」を例に考えてみよう。

第一次感想は多くの学級で書かせるが、その感想文を読みながら、「全体的反応」（主題にかかわる記述があるもの）か「部分的反応」（主題にかかわらない些末なことを中心に記述しているもの）かの二つに分ける。さらに、それぞれを「同化反応」（作品や主人公を肯定的にとらえている）と「異化反応」（否定的にとらえている）に分ける。その感想が確かであれば、原点から遠くの位置に記入する。もちろんおおよそである。この四つの群

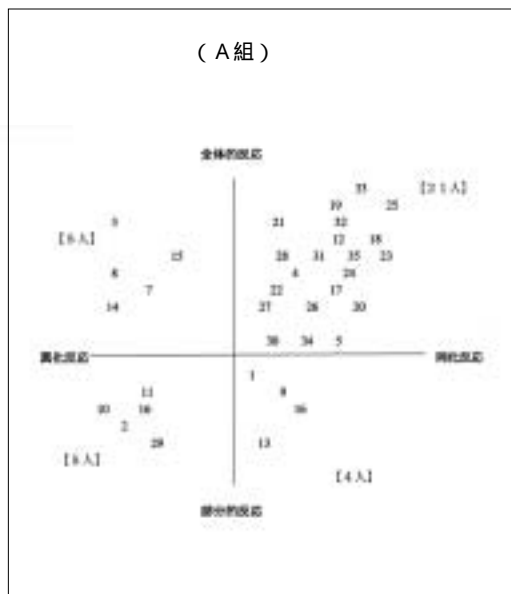
れを座標にプロットする。左の模式図のようにクラスによって違っているのがふつつである。

この図を見ただけで、A組とB組では学習の方法を変えなければならないということが直ちに理解できよう。B組は、「部分的反応」×「異化反応」の生徒が半数もいる。だから、すぐ課題作りに入ったのではその時点でこれらの生徒は脱落してしまう。やはり言葉の意味やニュアンス、事柄の説明など、基礎的・基本的なことに時間をかけ、部分音読を繰り返し、あらしをとらえたうえでなければ課題作りや課題追求に入ってはならないであろう。さらにB組は、課題を追求するたびに、生徒の反応をとらえ、十分でない場合はその原因を考え、フィードバックや新たな「手」を編み出していくことが必要であろう。

「実態」に即した授業作りとは、授業の進行に伴って変化していく「実態」(反応)に即して授業を組み直していくことであり、この「実態」(反応)を第五層と位置づけ、これを「近景」に据えることである。

番号は生徒

(A組)



(B組)

